

「ヴォーリス 建築 特別公開(9/14~10/14)」

■ ヴォーリス終の棲家に感嘆の声多く ■

宮津 多佑

2019年秋の「ヴォーリス建築特別公開」イベントは、今回からヴォーリス記念館が加わりました。清友園幼稚園の女性教師の宿舎として昭和6年に建造されたもので、ヴォーリスと満喜子夫人が晩年を過ごしました。常時は予約制ですが、今回の公開期間中は予約なしで内部からヴォーリスの暮らしを見ることが出来ます。この記念館に来られるお客様は、ヴォーリスの全てを知ろうとする熱心な方々で、十分に時間を取っておられるように感じました。特に「ヴォーリスの軌跡」のDVD上映では、ほとんどのお客様が全編を通して見ておられ、ヴォーリス設計の建築物のみならず、ヴォーリスのエバンジェリストとしての生き様やその結果として近江兄弟社の事業を知っていただきました。DVDの終了後に、この建物の目的とか、ヴォーリスがお見舞いに来た町の人々に手を振った小窓などの話を追加しました。また、部屋の内側から見る窓の棧が十字架に見えることに多くのお客様が感嘆の声を上げていました。

この場では、じっくりとヴォーリスを説明・ガイドできますので、次回以降もヴォーリス記念館の公開を継続されることを希望します。

■ 見所一杯の建物を案内して ■

久郷 良夫

彼の生まれた土地とは気候風土が大きく異なる地、即ち多湿多雨の日本に適応した建物を設計する困難を見事に克服しての建築物だと思います。

ウォーターハウス邸では、コロニアル風の広い屋根付き玄関ポーチやスタッコ仕上げによる重圧感のある外壁、ダブルハング（両上げ下げ）窓による効率的な通風の確保、フランス落としを使った4枚折り戸の解放でのDKの一体感、そして二階居室の、陽光をふんだんに取り入れた南の窓。

また吉田邸では、ギャンブレル（切妻腰折れ）屋根による小屋裏有効利用。

ヴォーリス記念館では、下見板張り壁とオイルステン仕上げの窓枠で和風調を醸し出し、黄金分割による調和のとれた窓、供待ち風の玄関ベンチや軽井沢彫り、手斧で削られた梁天井も、住む人や来客に「やさしさ」を提供しています。

このように見所一杯の建物を案内できて、建築家冥利に付きました。

*フランス落とし=ドアを下部で固定する錠

*供待ち（ともまち）=武家屋敷に備えられた縁台の様な物



記念館でのビデオ鑑賞

「長命寺 特別公開(10/20~10/31)」

■ 心豊かな一日 ■

松本 共子

10月26日、長命寺三仏堂の特別拝観のお手伝いに行きました。

私は主に、受付の仕事をしていただきました。その席からは、眼下の景色が良く見え、お天気が回復するに従ってきれいな遠景を楽しむことができました。

当日は、120余名の方が、特別拝観をされました。先輩ガイドの方が、ていねいに説明をされて皆さん熱心に聞いておられました。私なら、仏様のお名前をお伝えするだけで精一杯だな・・・？と、自分の勉強不足を反省しました。

拝観された方が「今日は、楽しみに来ました。」「どうして三仏堂の仏像は国の重要文化財に指定されて無いですか？」と、ご自分で調べられた資料を手に尋ねられたり、「毘沙門天は、どこにありますか？」「阿弥陀様がまん中じゃなくてお釈迦様がまん中ですね」「西国三十三ヶ所をここでおまいりさせてもらいました。」等々いろいろなお話をさせていただきました。

皆さん、ほっこりとしたお顔で帰っていかれました。私自身も、今までにない心豊かな一日となりました。



三仏像の説明